

経営比較分析表（令和6年度決算）

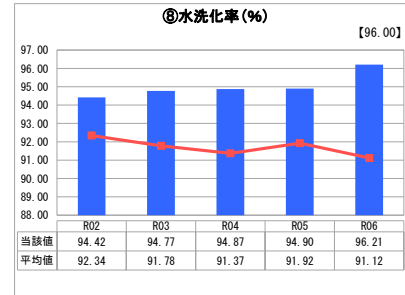
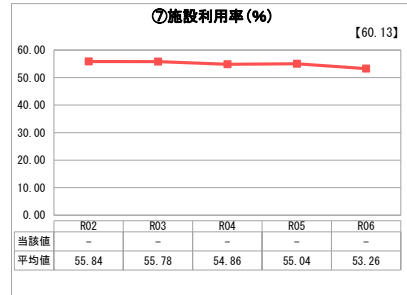
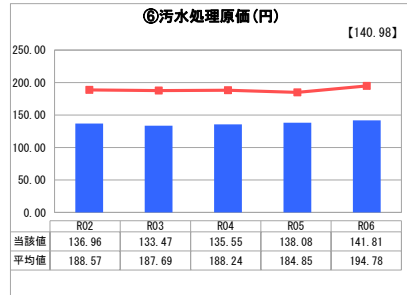
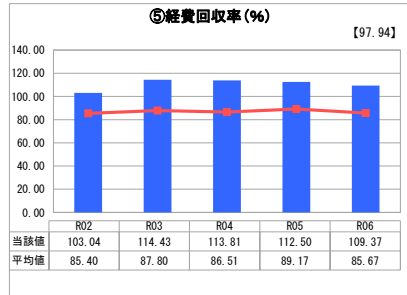
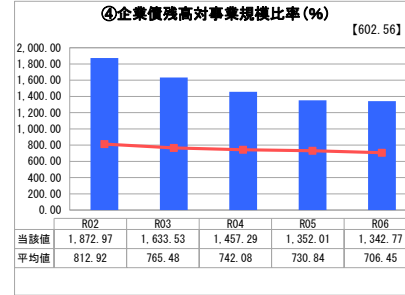
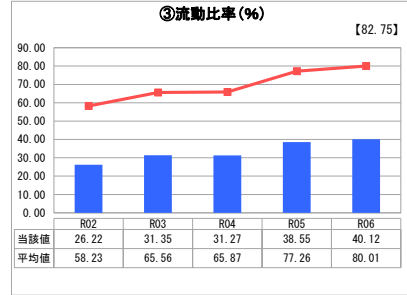
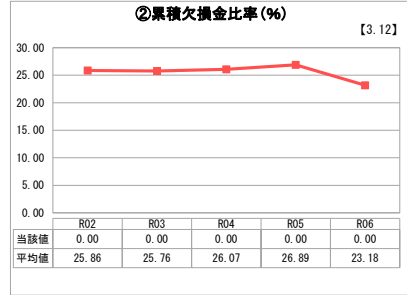
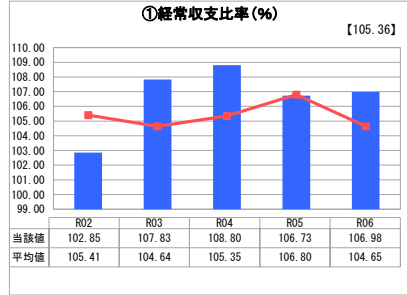
福井県 あわら市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家庭料金(円)
-	55.84	96.60	78.70	3,025

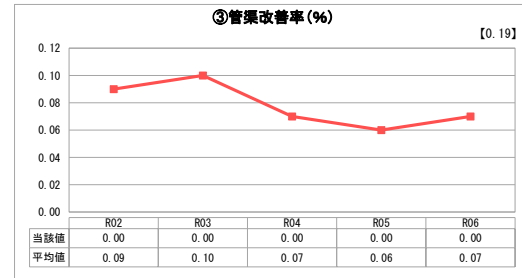
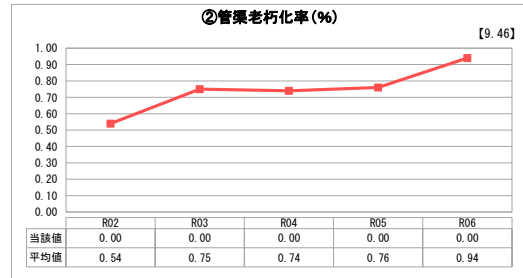
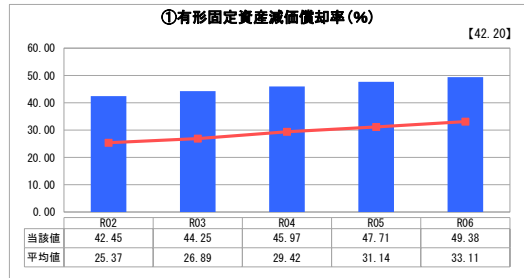
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,306	116.98	224.88
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
25,259	12.53	2,015.88

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を越えているが、一般会計からの繰出し基準外の補助金等を繰り入れているためである。
 ② 累積欠損金は発生していない。
 ③ 企業債償還額が多いことから、流動比率は類似団体と比較すると低くなっている。
 ④ 企業債残高対事業規模比率は、類似団体と比較すると約2倍となっている。過去の投資額が大きく、資本費平準化債も借り入れていることが影響している。
 ⑤ 経費回収率は前年度と比較し減少した。これは、汚水処理費が増加したことに加え、下水道使用料収益が減少したためである。
 ⑥ 汚水処理原価は類似団体と比較すると低く推移しているが、徐々に増加している。汚水処理費が増加している反面、年間有収水量は減少しているため、不明水対策が必要となる。
 ⑦ 施設利用率は、終末処理場がないため費用が発生していない。
 ⑧ 水洗化率は前年度と比べて増加している。これは普及促進活動を行うとともに新築・改築による下水道への転換が進んでいるためである。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、毎年微増となっている。現在は耐用年数を超えたポンプ設備の更新を毎年行っている。
 ② 管渠老朽化率は、法定耐用年数を超えた管渠がないため、発生していない。
 ③ 管渠改善率は、改善した管渠がないため発生していない。

全体総括

今後も人口減少等により下水道使用料の減少が予想される一方、過去に集中的に整備した施設の耐用年数が近づいてきている。今後は、施設の更新に要する費用が増大するため、厳しい経営状況が続く見込みである。
 そのため、施設の点検や調査を強化し、長寿命化に努めるとともに、適切な更新計画を立てる必要がある。また、料金改定や広域化などの経営改善策に取り組むことで、経営の安定化を図っていくことも必要である。
 加えて、不明水対策や水洗化の普及促進を引き続き行い、有収水量の増加も図っていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみを類似団体平均値及び全国平均を算出しています。